

2023年度日本建築学会大会（近畿）学術講演会（9月13日-9月15日）材料施工部門における若手研究者等の優れた発表をここに顕彰します。  
 なお、受賞対象は30歳未満（4月1日現在）であり、連名の発表の場合は筆頭著者として口頭発表を行った者のみとなっています。

2023年11月10日  
 材料施工委員会 委員長 野口 貴文

## 2023年度建築学会大会（近畿）学術講演会 材料施工部門若手優秀発表

### ※審査対象者270名

講演番号	氏名	タイトル
1014	今野 聡	石炭ガス化スラグのコンクリート用細骨材としての適用検討 その4 コンクリート試験によるスラグを混合した場合の各性状への影響の検討
1029	三森 耀介	気泡安定性に優れた収縮低減剤を使用したコンクリートの気泡特性に及ぼす振動締固めの影響
1032	Chandra Kiran VINUKONDA	Effect of C-S-H based Hardening Accelerator on Strength Development of High-Volume Slag Concrete with Ordinary Portland Cement
1038	伊神 竜生	1H-NMR Relaxometryを用いたセメント硬化体の炭酸化による空隙構造変化の基礎的研究
1039	羅 西	置換率の異なる高炉セメントの乾燥・乾湿繰り返しによる微細構造変化に関する研究
1104	小林 知大	サブテラヘルツカメラを用いた遠隔からの埋設鉄筋可視化技術に関する基礎的研究
1120	三浦 烈	機械学習による高流動コンクリートの流動性予測
1128	小林 謙祐	中性子回折法による測定条件がコンクリート内部の鉄筋応力測定精度に及ぼす影響
1143	小川 啓悟	デジタル画像相関法を用いたコンクリート表面の乾燥収縮ひび割れ挙動評価
1182	島田 修弥	仕上げ塗装の劣化がコンクリートの透気係数に及ぼす影響に関する研究
1194	成 璐萁	Analysis of the capillary macro-porosity of carbonated cement paste under different relative humidity conditions
1241	高杉 文也	メッシュ平年値を活用した寒中期間を詳細に示すGIS マップの作成 東北地方でのケーススタディ
1279	山田 陸生	高炉スラグ微粉末とアミン系腐食抑制剤を混合したFRPCMの諸性状 その2 鉄筋腐食抑制効果
1303	藤本 真世	太陽光パネルに由来する廃ガラスのコンクリート材料としての利用に関する実験的研究 その5 アルカリシリカ反応性
1351	大鶴 駿介	ALCパネルにおける埋込みアンカーの引抜き耐力の実験的評価 その2 実験結果と考察
1354	中藺 聖子	難燃薬剤処理木材に塗装した場合の性能に関する研究 その1 促進耐候性試験600 時間における性能評価
1370	桂川 紗帆	寸法安定性の異なる圧密木材の細胞形状の観察結果に関する一考察
1379	林 泉水	常温アスファルト合材を下地に用いた大形床タイル張りのひび割れ追従性と耐久性に関する研究
1382	伊藤 花恋	小径ドリル型削孔試験機を用いた目地モルタルの圧縮強度推定
1383	大野 湧人	電磁波多層走査法を用いた外壁タイルの劣化調査手法に関する研究 その1 試験体を対象とした空隙深さの推定
1412	戸邊 郁哉	浸水害を受けた内壁下地材の吸水・乾燥及び曲げ特性
1464	柴山 夕香	キャストの動荷重に対する張り床の耐ふくれ性とコンクリート床下地の表面強度との関係
1465	川口 陽叶	すべりの変化を予測するための摩耗促進試験機の適用性の検討 その3 けい砂を用いた新たな摩耗促進試験方法
1476	坂本 海	ポリマーセメント系塗膜防水材のふくれ発生要因
1632	春木 優汰	写真測量技術を活用した建築現場状況のデジタル化に関する研究 その7 検証環境を活用したSfMの寸法精度評価
1637	永井 晴己	へらと壁面接触型ドローンを用いた外壁タイル仕上げの剥離の検出
1672	矢野 紘基	下地モルタルのヤング率と線膨張係数がコンクリートとモルタルの接着一体性に及ぼす影響の解析的検討
1682	Rosyad Mohammad	Effect of light calcium carbonate on the hydration of Portland cements and blast furnace slag blend
1701	飯田 雄大	BFS置換率がジオポリマーの物性および鉄筋腐食に及ぼす影響に関する研究 その1 圧縮強度および中性化抵抗性
1719	池田 智裕	発砲ポリウレタン断熱材のセル界面部における結合分解制御メカニズムの導入による資源循環技術